

イタリア共和国

派遣期間 2014年4月～2017年3月



ローマ日本人学校 帰国報告

根室市立北斗小学校
教諭 佐藤 未 菜

1 イタリア共和国、ローマ市について

国名 イタリア共和国 (Italian Republic)
面積 30.1 万平方キロメートル (日本の約5分の4)
人口 60.7 百万人 (2016年1月。日本の約半分)
首都 ローマ 約5,870,450人 (2014年)



イタリアは20の州に分けられ、首都ローマはイタリア中部ラツィオ州の州都にあたります。永遠の都ローマ。街中には数々の遺跡が残っており、古代ローマ時代の面影を感じます。ローマの緯度は、北海道函館とほぼ同じにも関わらず、地中海性気候のため冬も暖かく、夏は北海道出身者としては驚く暑さでした。空気は乾いているので、日陰に入れば涼しさを感じられましたが、照り付ける太陽の光をもろに浴びると、焼かれている感覚がありました。サングラスは必須です。

宗教 キリスト教 (カトリック) が国民の約80%。

その他、キリスト教 (プロテスタント)、ユダヤ教、イスラム教、仏教。

別の国ではありますが、キリスト教カトリックの大本山バチカン市国がローマ市内中心部にあります。教会の数は多く、自宅から学校まで10分歩く間に3つの教会がありました。

2 イタリア共和国の教育制度

イタリアの学校制度は、小学校5学年 (6歳～10歳)、中学校3学年 (11歳～13歳)、高校5学年 (14歳～18歳) となっています。

小学校については、一クラス25人程度。学校によって様々ですが月曜日から金曜日まで、もしくは土曜の午前中に授業がある場合もあります。月～金曜日までの授業は午前が全員。午後は選択制になっており、宿題で学習の差がないようにしています。

授業で多いのは国語と算数で、体育などは少なく、午後から習い事として学んでいる子も多いようです。

昼食は家で食べたり、給食だったりと様々な形があります。2時間目が終わるとメレンダといって自分で持ってきたお菓子を食することができる休み時間があります。

基本的に理系、文系を担当する二人の先生が担任し、6時間という勤務の中で1日に交代して授業を

受け持ちます。小学校5年間はクラス替えも担任が変わることもありません。

イタリアはインクルーシブ教育の先進国であり、基本的に全員が同じ教室で授業を受けます。

イタリアの法律として、小学生の一人歩きは禁止されているため送り迎え、買い物、遊びに行くにも保護者の同伴が必要になりますし、一人で留守番をすることも禁止されています。



3 ローマ日本人学校概要

この校章は、1991年、ローマ在住のデザイナー 伊澤 誠氏により作成されました。ローマの「ロ」は、古代ローマより2千年以上変わることなくそびえ立つ大理石の柱をイメージしています。このローマ日本人学校もしっかした基盤の上にいつまでも素晴らしい学校であるようにとの願いが込められています。また、ローマの象徴である牝狼に育てられた双子のロムルスとレムスの像と勝者に捧げられる月桂樹の冠を日の丸に重ねるようにデザインされています。

1975年ローマ日本語補習校として発足し、日本文化会館の一部をかりて58人の子どもたちが通ったところから始まり、1990年に日本国政府より、正式に日本人学校として認可されました。1996年にはイタリア政府から正式に学校として認められました。2003年には、現在校舎がある Casetta Mattei 地区に校舎を移し、現在約20名の子どもたちが学んでいます。ローマ市およびその近郊に在住する日本人子女を対象とし、初等・中等教育を行うことを目的としていますが、公立学校的な要素もあり、入学・編入希望者は原則として全員受け入れています。日本人幼稚園、土曜日だけの補習授業校の子どもたちも同じ校舎で学びます。



文部科学省からの派遣教員8名、現地採用の日本人講師2名（音楽、美術専科）、英会話講師1名。約20名の生徒に10名以上の教員という割合をみると、恵まれているようにも感じますが、小1から中3まで9学年に担任7名（中学部は合同ホームルーム）で、主要5教科は単学年での授業を行っており、各教員のもっている授業数や分掌の仕事は非常に多く、校長、教頭も授業をもちます。子ども達の滞在年数は平均して2年～3年で、国内の学校に戻る子がほとんどであり、両親がイタリア在住でそのまま現地の学校に進学する子、両親の仕事でそのまま別の国の日本人学校へ転入する子、卒業して現地のインターナショナルスクールの高等部に進学する生徒が少数いました。



グラウンド



ハッピーパーク



バスケット・テニスコー

ト



校舎は隣接する現地の教会に借りています。集会室と学校として使われていた施設。年間日本円で約1400万円以上の借り上げ料を払って、使用しています。上の写真以外にも、理科室・美術室・PC室など、学校教育に必要な施設はほぼそろっています。保健室はないため、職員室で対応しています。

時定表

小学部	校時	中学部
:10	バス到着	8:10
:20	10分	8:20
:30	朝読書	8:30
:30	10分	8:30
:40	朝の会	8:40
:40	45分	8:40
:25	1校時	50分
:35	45分	9:30
:20	45分	9:35
:20	2校時	50分
:20	10:25	10:25
:40	20分	10:40
:40	中休み	15分
:25	45分	10:40
:35	45分	11:30
:20	45分	11:35
:20	3校時	50分
:05	45分	11:35
:05	45分	12:25
:50	45分	13:05
:50	5校時	50分
:00	45分	13:05
:45	45分	13:55
:45	45分	14:00
:00	45分	14:50
:00	15分	15:00
:00	帰りの会	10分
:30	委員会	15:00
:30	課外活動	15:30
:50	バス発車	15:50

1年生の時間割

	1月30日 月曜日	1月31日 火曜日	2月1日 水曜日	2月2日 木曜日	2月3日 金曜日
1校時	生活 (佐藤 丁)	国語 (梶野 丁)	体育 (梶野 丁)	道徳 (梶野 丁)	体育 (梶野 丁)
2校時	音楽 (門田 丁)	体育 (梶野 丁)	国語 (梶野 丁)	国語 (梶野 丁)	国語 (梶野 丁)
3校時	国語 (梶野 丁)	図工 (三浦 丁)	算数 (梶野 丁)	算数 (梶野 丁)	EC (ドレイン 丁)
4校時	算数 (梶野 丁)	図工 (三浦 丁)	生活 (佐藤 丁)	イタリア語 (門田 丁)	書写 (三浦 丁)
5校時	国語 (梶野 丁)	生活 (佐藤 丁)	音楽 (門田 丁)	国語 (梶野 丁)	算数 (梶野 丁)
6校時	学び (校長)	国語 (梶野 丁)	学び (校長)	学び (校長)	学活 (梶野 丁)
放課後	小学部 音楽練習	課外活動 (遊び)	課外活動 (遊び)	定例集会	清掃活動

授業時間は小学部45分、中学部50分で、すべての教員が小学部、中学部の授業を担当しています。小学部もほぼ教科担任制をとっている。小学部1年生から中学部3年生まで全員が毎日6時間授業です。8時過ぎにほとんどの児童がバスで登校し、15時50分頃学校を出るまで学校で過ごします。1年生から長い時間学校で過ごす姿を見て、はじめは大変驚きました。

(1) ローマ日本人学校の行事

① 3校合同運動会



毎年5月下旬、日本人学校約20名、幼稚園約10名、日本語補修校約150名の3校が合同で運動会が行われます。紅組、白組に分かれて戦い、ヨサコイや日本舞踊と一緒に踊り、交流を深めています。日本人学校の児童生徒は3年生から組体操に取り組みます。ラジオ体操は、イタリア語バージョン、日本語バージョンそれぞれを流す年がありました。日本を感じる行事として、日本らしさを大切にしている行事の一つです。

②学習発表会



毎年10月に行われます。低学年部、中学年部、高学年部、中学部が生活科や総合学習の時間「ローマの時間」で学んだことをまとめて発表します。内容の例としては、低学年「ローマの果てまでイッテQ」（町探検や公共施設の使い方について）。中学年「アイアンシェフ」（イタリア料理対決）。高学年「海を渡った侍」（ローマにきた日本人侍支倉常長について）中学年「いつかきっとMUGEN」（進路学習について）。また、全校合唱として日本の歌を歌ったり、イタリア語の歌を歌います。

③その他の行事・ローマならではの授業

I 体験学習

ローマ日本人学校には、修学旅行や宿泊研修がありません。その代わりに、毎年体験学習という行事があります。低学年はお泊り無し、中学年は1泊、高学年以上は2泊でそれぞれ色々な所へ行って活動します。

低学年・中学年

1日目は学校でパスタやうどん作り、サラダ作りを行います。低学年はメルカート（市場）で野菜や、ハム、チーズを買ってサラダを作ります。中学年は、総合の時間で調べてきた麺作りです。2日目は校外に出ます。低学年はアスレチック体験。中学年は1泊2日のお泊りです。3日目は合流して、ラフティング体験をする年もありました。



高学年・中学部

2泊3日で、ラフ
プファイヤー、アーチ



でロバと山歩き、キャン
の観察等々様々な自然体験をしました。



II 国際交流

主に三校との交流があります。学年に応じて、学んだことが活かせるように現地校やインターナショナルスクールと交流しています。学年と交流公については以下の通りです。

- ・ジャントゥールコ校（イタリア公立）5月来校（3・4年生）、2月訪問（1～6年生）
歌、運動、文化の交流をしています。
- ・ラサール校（イタリア私立）11月来校（1・2年生、3～5年生）2月訪問（1～5年生）
来校してもらい一緒に日本語やイタリア語の歌を歌ったり、生活科で作ったおもちゃで遊んだり、訪問して現地の授業に参加させてもらいます。また、カーニバルのときには仮装してイベントに参加します。
- ・アンブリット校（インターナショナル校）11月訪問（6～中3）、2月来校（6～中3）
6年生以上が英語を使って交流します。授業に参加させていただいたり、折り紙や習字、剣道を英語で説明し、体験してもらいます。



III 校外学習 総合的な学習の時間（ローマの時間）

3年生以上の総合的な学習の時間は、「ローマの時間」と呼ばれ、中学年、高学年、中学部でそれぞれテーマを決めて1年間調べを進めていきます。大体的内容としては、中学年は食や観光について、高学年は歴史について、中学部は職業についてテーマを決めている。



ローマの観光名所

日本の侍が着いた港

A. Sローマのホームグラウンド



ワイン造り



日本殉教者教会



イタリア航空訓練学校

IV イタリア語の授業

全学年、週1時間程度イタリア語の授業があります。3年生以上はレベル別に3つのクラスに分かれて学習します。また、買い物や、イタリア人にインタビュー等学んだことを校外に出て実践します。



V 芸術鑑賞・写生会

毎年1月頃、芸術鑑賞としてローマのオペラ座でバレエを鑑賞します。以前は、劇や歌を観ることもありましたが、言葉がわからなくても楽しむことのできるバレエを選んでいきます。

毎年4月の終わりに写生会を行っています。バチカン庭園、コロッセオ、サンタンジェロ城、ナボーナ広場、日本文化会館の日本庭園などに行きます



VI 訪問・特別授業

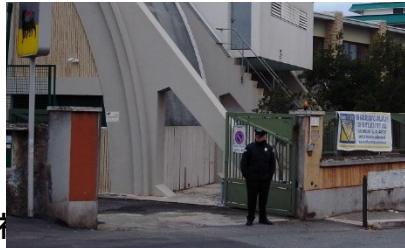


ローマを訪れる著名人の方々がローマ日本人学校に来てくださいました。3年間で秋篠宮両妃殿下、宇宙飛行士の星出彰彦さん、浪曲師春野恵子さん、デフサッカー日本代表チームの方々など様々な方に訪問していただきました。また、ローマに住む日本人の方々に、ハリウッド映画に出演されている山内春彦さんやオペラ歌手として活躍されていた方、ローマの日本企業で働く方々、外務省で働く方々などに特別授業をしていただきました。

VII 危機管理



私が1年目の時には警備員は配置されていませんでしたが、近隣諸国でのテロを受けて、警備員が常駐するようになりました。車両が入る門が2重になっています。スクールバスの出入り時には複数の教員で不審車両の出入りがないように見張っていました。保護者には校舎に入るために必要な許可書を配布し、監視カメラで出入りを確認します。避難訓練として、地震火災以外にもバス乗車中の避難訓練、不審者侵入の避難訓練等を行いました。



支援員と先生によるインクルーシブ教育～

インクルーシブ教育の先進国であるイタリアの現地学校を3回視察させていただく機会をもらいました。



◎学校視察①

学校：Istituto Comprensivo Fratelli Cervi イタリア公立学校

見学日：2016年 11月、12月 2017年 3月（計3回）

対象者：2年生 A君 脳性麻痺

話すことができない。毎日学校に通い、リハビリにも行っている。

9歳だが、2つ下の学年7歳のクラスに在籍している。

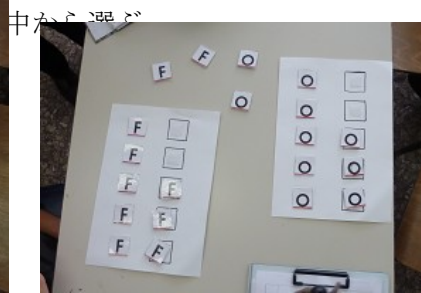
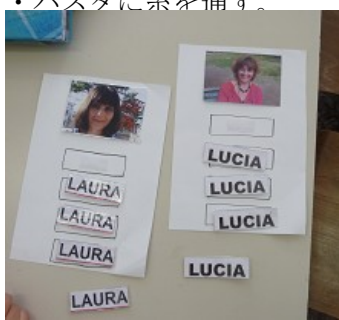
担任の先生は午前（理系）・午後（文系）それぞれ一人ずつ。支援員（国）として6時間先生がつき、それ以外の時間で3人のアシスタント（市）が交代しながらついている。

学習場所

- ・2年生教室の一番前の席。隣に支援員の先生がついている。他の子どもたちが教科の勉強をしている中で、一人別のことをしている。担任の先生が話かけることもある。
- ・1時間目は座っているが、2時間目以降は落ち着かない。空き教室へ移動し、先生と二人で活動することもある。

学習内容

- ・単語を貼る・・・①
- ・物語を聞いて、その場面にあったジェスチャーをする。
- ・絵と単語が小さいカードになって本になっている。・・・②
(誰、どこ、いつ、なに、どんなふうに)
- ・線をなぞる・・・③
- ・色を合わせる
- ・色々な材質の物を触って好きか嫌いかわかる（カードを指さす）
- ・動画を見て、出てくる動物の頭文字のアルファベットを選ぶ（2択）①体のパーツを組み合わせる
- ・パスタに糸を通す。

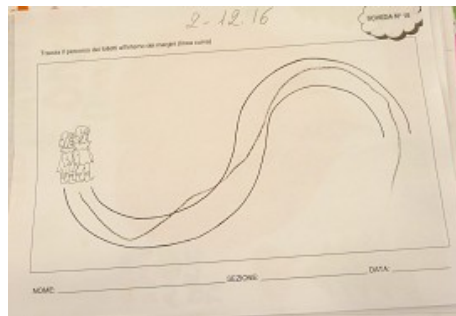


中から選ぶ

①物事の順序

①先生、友だちの名前と写真

①同じアルファベットを選ぶ（2択）



1日の予定

②指を指して自分の気持ちを伝える

③道をなぞっていく。運筆

目標

- ・写真と言葉を一致させることができるようになること。
- ・遊びながら言葉を覚えたり、ルールを学んだりすること。

成績

- ・数字では表さない。できる、すこしできるなどで表現する。

クラスの友だちとの関係

- ・話をできる子もいるが、目を合わせられない子もいる。
- ・大きな声をあげたりすることもあるが、他の子はあまり動じない。
- ・イライラすると床に寝転んだり、自分の手を噛んだりと自傷行為もあり、怖がっている子もいる。
- ・他の子よりも2歳上で力が強くコントロールできないことがある。
- ・できるだけ他の子と一緒にするということを教えている。パソコンや図工の時間はペアになってできることを担当することもある。できないときは見ている。

その他

- ・社会性を養うために、他のクラスの授業にも参加している。(体育)
- ・教員の教材研究の時間は確保されていない。教科書等はなく、先生が自分で作っている。
- ・ずっと同じ先生に見てもらえるわけではなく、1日で2人の先生に見てもらおう。
- ・政府に認められている特別支援学校はないが、州が認める盲学校、聾学校はある。
- ・一人の先生が4人の児童生徒までみることができる。
- ・学校に親は簡単に入ることができない。参観日はない。親が授業を見ることはない。

考察

同年代の子どもたちと一緒にいることによる効果はもちろんあると思うが、全体指導の中で自分に与えられた目の前の作業に集中することは難しく、鍛えられる能力も鍛えられない面があると感じた。結局は午後の時間に早退し、放課後に専門機関へ通って、そこで必要な力をつけることになっているようである。また、日本の学校では、特別支援の子どもたちが集まって行事を行い、その中での成長場面もあるが、イタリアではそういった活動はない。

今回、学校を訪問させていただき、実際にインクルーシブ教育の現場を見て、子どもたちが一緒にいることの良さも感じたが、取りだして学習する時間と場所を保障することも大切だと思った。ただ、学習の場のバランスがうまくとれ、周りの人の理解が得られるのであれば、様々な立場の人が一緒に学ぶことで、全ての子どもが将来社会を見据えた学びができる制度だと感じた。

公立校の実態として、予算がなくコピー用紙やトイレットペーパーは子供たちに持ってきてもらうコピーをする機械も無いため、クラスの保護者でお金を出し合って購入するという実態があった。日本の教育を知っていると、不便だと思うことも多いが、子供たちが楽しく学んでいる様子を見ることができた。

今回の現地公立校の他にも何度か小学校を見せてもらった。日本と同じように、情熱をもって指導している先生も、そうでない先生もいて外国人の私達が見ていても変わらず、自分のやり方を貫いていると感じた。参観日がないため人に見られる機会は少ないと思うが、私たちの訪問を快く受け入れてくれたのは、見てもらうこと、目立つことが好きなラテンの血だと感じた。

4 3年間を振り返って

本当に行くことができ良かったと思える3年間でした。様々な事情で海外で暮らす子供たち、保護者の方々、現地スタッフの方々、そして色々な県から来られた先生たちとの出会いが何よりも財産となりました。海外に住むということは、改めて日本を見直し、他県の先生たちと仕事をするには北海道を改めて見直す機会となりました。また、日本の当たり前は、世界の当たり前じゃないことを体感し、物事を見る目も変わったと思います。

ローマで日本よりも日本文化を大切に過ごし、ここにいるのは現実では無いのではないかと夢見心地の3年間。たくさんの人に助けてもらい無事に終えることができました。出会った皆様に **Grazie mille!**